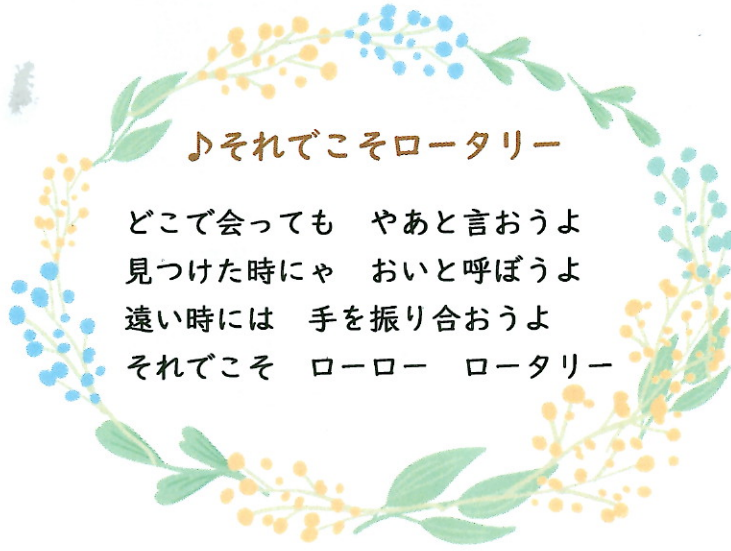


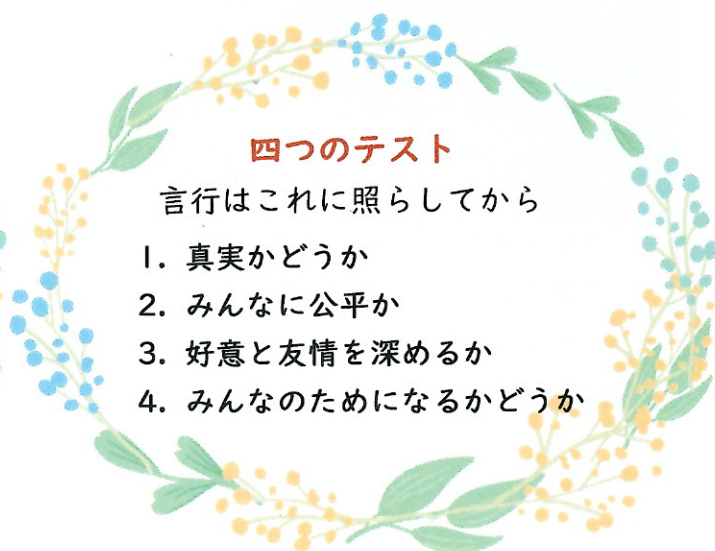


ロータリーは  
機会の扉を開く



♪それこそロータリー

どこで会っても やあと言おうよ  
見つけた時にゃ おいと呼ぼうよ  
遠い時には 手を振り合おうよ  
それこそ ローロー ロータリー



四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

第2147回定例会記録9月9日(水)

司会進行(SAA) 宮里 一志 職業奉仕委員長

- ① 開会の点鐘 【儀保 充 会長】
- ② ロータリーソング 「♪それこそロータリー」
- ③ 四つのテストの唱和 【大城洋介 国際奉仕委員長】
- ④ 会長挨拶 【儀保 充 会長】
  - ・30分と短い時間の例会ですが、元気な会員の皆様にお会い出来た事を、嬉しく思います。
- ⑤ 幹事報告 【前田 裕子 幹事】
  - ・RYLAについてのご案内
  - ・例会について(会長に同じく)
  - ・ロータリー100周年記念切手購入案内
- ⑥ 委員会報告 【儀間敦夫 社会奉仕委員長】
  - ・2020.09.10 オンライン全体会議/Zoom ミーティングへ参加致します。
- ⑦ 出席報告 【新城 文江 職業奉仕委員長】
- ⑧ 閉会の点鐘 【儀間 充 会長】

9月定例会予

- 2日(水) 休会(お盆により)
- 9日(水) 理事会・例会(時短)
- 16日(水) 時短例会
- 23日(水) 時短例会
- 30日(水) 夜間例会(通常)

卓話者予定 未定

ニコニコBOX

前田 裕子 お久しぶりです。

儀保 充 お久しぶりです。

小 計 2,000

累 計 ¥13,000

ご協力ありがとうございます。

名護ロータリークラブ週報



国際ロータリー第2580地区  
NAGO ROTARY CLUB WEEKLYREPORT

国際ロータリー(RI)テーマ: Rotary Opens Opportunities

2020~2021年度 国際ロータリー会長 ホルガー・クナーク

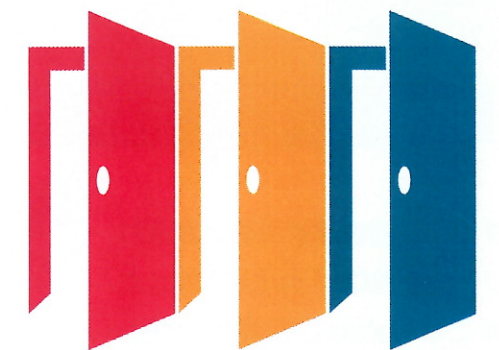
名護ロータリークラブ

創 立: 1974年6月26日

地 域: 沖縄県本島北部全域

会員数: 35名

(2020年9月16日現在)



ロータリーは機会の扉を開く

昭和50年 本部町で開催された沖縄国際海洋博覧会に、  
世界のロータリアンの為のメークアップの場所として名護RCが設立されました。

名護ロータリークラブテーマ 「絆を強く・輪を大きく」

- ・例会日: 水曜日 12:30~13:30 毎月最終水曜日 19:00~20:00
- ・例会場: ホテルゆがふいんおきなわ(名護市字宮里453-1)



会 長: 儀保 充	【事務局】〒905-0011 名護市字宮里453-1
副会長(ELKT): 吉田 勉	【電話&FAX】0980-53-4568(直通)
副会長(ミニ): 濱元 清	0980-53-0031(内線232)
幹 事: 前田 裕子	【HP URL】http://www.nago-rotary.org/
会報委員長: 崎濱 秀光	【E-mail】office@nago-rotary.org

## 2147回 理事会・例会（30分の時短例会）

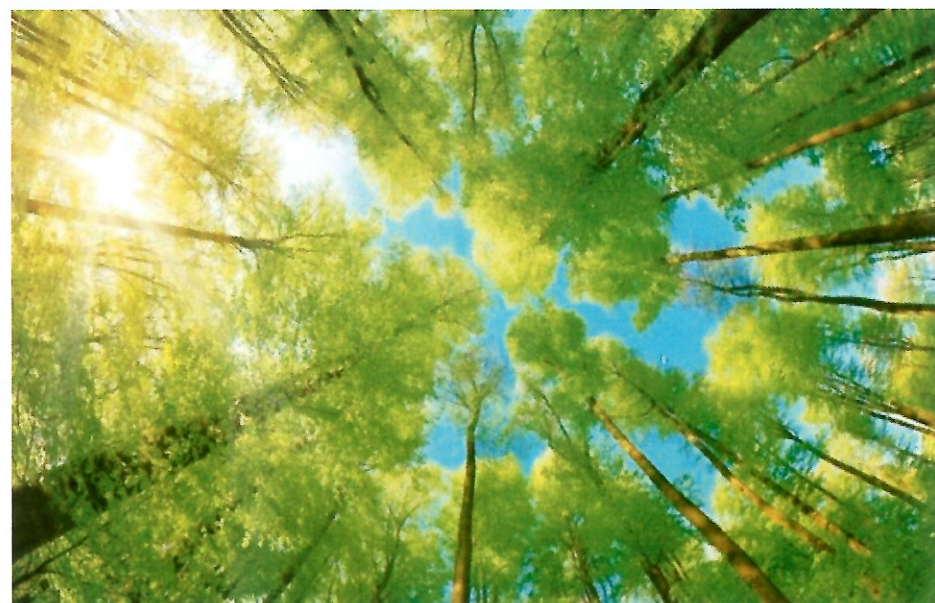


30分と短い時間でお食事はお弁当にてお持帰りの時短例会15名の会員参加で開催の様子

## 『環境の保全』が新しい重点分野に

ロータリー財団管理委員会と国際ロータリー理事会は、「環境の保全」という新たな重点分野を追加しました。

過去5年間、財団のグローバル補助金では、1800万ドル以上が環境に関連したプロジェクトに充てられてきました。環境を支援する別個の重点分野を設立することで、ロータリアンが世界中の地域社会で好ましい変化をもたらし、より大きなインパクトを生み出す一助となります。



環境の保全は、ロータリーの7つ目の重点分野となり、グローバル補助金によって実施される奉仕活動のカテゴリーとなります。そのほかのカテゴリーは、平和構築と紛争予防、疾病予防と治療、水と衛生、母子の健康、基本的教育と識字率向上、地域社会の経済発展です。

プロジェクトのための補助金申請は、2021年7月1日から受付を開始します。この新たな重点分野におけるグローバル補助金を支えるため、ロータリアンやその他の方々からの寄付や誓約を今後募っていくこととなります。この新しい重点分野に関する詳しい情報は、近日中に公開されます。



予防接種キャンペーンで経口ポリオワクチンの投与を受けるコートジボワールの子どもたち。



数百人の子どもに経口ポリオワクチンを投与する活動に向かうボランティアと医療従事者たち。

アフリカ地域の野生型ポリオ根絶という快挙を受け、ロータリーとGPEIパートナー団体は、今後も粘り強さとコミットメントがあれば野生型ポリオの世界的な根絶は可能であることを示しました。

世界保健機関（WHO）は、8月25日、WHO アフリカ地域の全47カ国において野生型ポリオウイルスの伝播が正式に断ち切られたことを発表しました。これは、ロータリーが最優先事項として掲げてきたポリオの世界的根絶に向けた、歴史的かつ重要な前進となります。

アフリカ地域での数十年にわたる懸命な努力によるこの勝利を受け、ロータリーと世界ポリオ根絶推進活動（GPEI）のパートナー団体（米国疾病対策センター [CDC]、UNICEF [国連児童基金]、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、Gavi ワクチンアライアンス）は、この公衆衛生上の達成を称え、強いコミットメント、連携、粘り強さがあれば世界からポリオを根絶できることの証であると述べました。

アフリカ地域の野生型ポリオ根絶の認定は、独立したアフリカ地域認定委員会（ARCC）が現地で徹底した検証を行った上で行われました。同委員会は、新規症例がないことを確認し、さらにポリオの監視・予防接種・検査の能力についてカメルーン、中央アフリカ共和国、ナイジェリア、南スーダンから提出された文書の分析も行いました（同地域の他43カ国からの文書は既に委員会が受理）。

アフリカ地域の野生型ウイルスによるポリオの最後の症例は、2016年8月、2年間の無症例期間の後、ナイジェリア北部のボルノ州で記録されたものでした。紛争や人口移動といった課題が、現地の子どもへの予防接種を阻む要因となっていました。

アフリカ地域で野生型ポリオウイルスが根絶された今、世界人口の90%以上を占めるWHOの6地域のうち、5地域でポリオが根絶されたこととなります。WHOの東地中海地域に含まれるアフガニスタンとパキスタンでは、現在も野生型ウイルスによるポリオの感染が続いています。

アフリカ地域の野生型ポリオ根絶の認定は、ライブストリームイベントで行われました。イベントには、ナイジェリアのムハンマド・ブハリ大統領、ビル・ゲイツ氏、国際ロータリー会長のホルガー・クナーク氏、ナイジェリア・ポリオプラス委員長のツンジ・フンジョ氏、そのほかのGPEIパートナー団体の代表らが出席し、スピーチを行いました。祝賀イベント後には、記者会見が開かれました。

クナーク氏は、新型コロナウイルス流行の中で人びとは良いニュースを必要としている、と述べました。今後も大きな課題が残されていることに言及した上で、「だからこそ、この大きな成果を認め、この快挙を実現するまでに重要な役割を果たしたすべての人を称賛しなければなりません。長年の努力があったからこそ、ここに至ることができたのです」と語りました。